

## 1 現状

- 震災直後やその後の復興の中で、多くの若者が被災地や県内各地において、まちづくりやNPO、ボランティア活動などで活躍している。
- 県の意識調査（H27）によると、若者自身が主体的に行うべき活動で最も高いのが、「新しいことを学ぶ機会を持つこと」で23%、次いで、「地域に役立つことをすること」が16.5%、「他の若い人達と活動すること」が10.8%となっている。
- 沿岸では、首都圏の大学と地域連携協定等を結び、地域の若者が、様々なアイデアを共有しながら、地域課題の解決に向けた活動を行っている。
- 「岩手県人口ビジョン」（H27）によると、18歳の進学・就職期、22歳前後の就職期において、特に東京圏への若者の転出による社会減が顕著となっている。

## 2 課題

- 復興における新たなまちづくりやコミュニティ形成において、若者（団体）の参画が期待され、若者（団体）の地域と連携した主体的な活動を一層の促進が必要。
- 若者の主体的な活動の定着化・活性化につながる若者の交流促進や若者同士のネットワークづくりの充実が必要。
- 若者の地元志向を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるためにも、多様な分野で若者が活躍できる環境づくりが必要。

## 若者活躍支援の必要性

☞ 人口減少社会を迎え、斬新なアイデアや溢れるエネルギーなどのポテンシャルを有する若者が、地域に目を向けながら、まちづくりや地域課題の解決等に向けて中心的に携わっていくことが期待される。

☞ そのような若者による主体的な活動が、より地域で活発化することで、まちづくりの発展のみならず、地元定着やU・ターン促進、地域の担い手の確保、人材育成などへの効果も期待される。

💡 若者自身が多様な分野の活動に刺激を受け、若者同士のネットワークを開拓し、つながった仲間との行動を通じて、地域の中における自身の可能性を実現するためのサポート（若者活躍支援）を行っていくもの。

## 3 対応の方向性

- 若者間の交流とネットワークづくりの促進
- 若者の活動を支えるキーパーソンの充実
- 若者活躍プラットフォーム（拠点）のあり方検討
- 情報発信の強化

## 4 平成 30 年度の具体的な取組

### ☆いわて若者カフェの運営

【運営方法】委託（イベント企画・実施、清掃、警備）、県直営（カフェマスターの配置）  
 【利用対象】いわて若者ポータルサイト（コネクサス）の登録団体  
 【開設時間】火曜日～土曜日 15時～21時

#### 【機能】

- ①若者同士の交流と情報交換の場
- ②若者団体の情報発信（ミニスタジオ）
- ③若者の活動を支援する人材の配置（カフェマスター、サポートスタッフ）

#### 【イベント等】

- ①カフェマスターと若者とのミーティング
- ②カフェミーティング
- ③わいわいトーク（ニコニコ生放送）
- ④カフェ専用サイト開設
- ⑤情報誌の発行



### ☆いわて若者会議の開催

【趣旨】多様な分野で活動する若者が交流・意見交換することにより、地域における主体的な活動の活性化につなげるもの。

#### 【内容】

- ・会議テーマ：「若者のイノベーションによるいわての創生」
- ・知事と若者の対談、ブースセッション等
- ・ワークショップ「チェンジメーカーズデザインプログラムを体感」（地域版）

#### 【日程・場所等】

- ・全体版：H30.11.4（日）、プラザおでって（盛岡市）
- ・地域版：H31.2.16（土）、ゲストハウス3710（宮古市）



### ☆いわて若者アイデア実現補助

【概要】地域課題の解決や元気創出に資する独創的、先進的な事業を実施する若者グループに対して補助金を交付するもの。

#### 【募集事業】

- ①震災復興分野（採択予定：3件）被災地のまちづくりなど、本格的な復興につながる事業
- ②地域づくり一般分野（採択予定：7件）地域課題の解決など、地域の活性化につながる事業

#### 【採択状況】

- ①第1次募集 震災復興分野 1件、地域づくり一般分野 8件
- ②第2次募集 地域づくり一般分野 1件（10/17採択） 計 10件

### ☆若者交流ポータルサイト（コネクサス）

【概要】いわての若者情報や行政からのお知らせを集約。若者団体の発信拠点・交流の場として岩手県が運営する公式サイト

#### 【運用状況】

- ①団体登録者数 H30.12月現在：67団体
- ②SNSを使用した情報発信  
Twitter 及び Facebook による情報発信の実施（毎日）
- ③若者団体、行政からのお知らせ（随時）
- ④投稿コンテストや「特集記事」

